

ふくい森の子自然学校代表

代表を務める「ふくい森の子自然学校」は三年目を迎えました。どんな活動をしていま

か。中学生までの子どもを対象に、森や川などでの体験プログラムを実践している。北陸での自然体験活動の充実を図るNPO法人自然体験共学センターが、人と自然環境の調和を地域に根ざして学ぶ場として二〇〇五年に開設。廃校になった福井市手中町の旧上味見小(上味見生涯教育施設)を拠点に、上味見地区のさまざまな場所を使っ

辻 一憲さん

て活動している。キャンプや川遊び、稲作など年間を通しての活動に県内外から延べ約千人の子どもが参加。同センターのメンバーのほか、大学で教育やまちづくりなどを学ぶ学生ボラン



ふくい森の子自然学校代表。NPO法人自然体験共学センター理事長。福井市松本1丁目。41歳。

上味見で生きる力学ぼう

ティアら約二十人がスタッフとしてかかわっている。

「これまで取り組んできて感じたことは、

森や川など豊かな自然から学ぶことのほか、活動にかかわって

くれる上味見地区の人たちから人とのつながりの大切さを

教えてもらった。稲作体験用の田を喜んで貸してくれ、先月の田

植えでは手植えの技術を丁寧に教えてくれるなど、応援してく

育への熱い思いを、子どもにも惜しみなく注いでくれ、とてもありがたい。

「先月は、学校と地域住民が協力し、施設の裏山で「森の演奏会」というユニークな行事を

加も促す行事を増やしていきたい。子どもを支え、子どもと喜

びを共有するための保護者の活動もあるべきだし、大人だけの

自然の楽しみ方を探る行事もあっていい。そして、大人にも自然を愛するようになってほし

い。これまでの蓄積を基にもう十年間、私を含め学校にかかわ

るすべての人が、上味見地区で生きる力を学んでいけたらと思

っている。

れている。人 企画しましたね。と人と共に 学生ボランティアと地域の人

支え合って暮 たちが協力して、裏山に建てたい

ら山あいの ツリーハウス周辺を、森と山に

地域だからか 親しむ楽しい場にしようと話

もしれない 合い、その第一歩として企画し

が、人への深 た。子どもたちが森の妖精にふ

たりして、訪れた人には森で過ごすひとときのすばらしさ感じてもらえたと思う。

「これからの活動の目標は、子どもだけでなく、大人の参加も促す行事を増やしていきたい。子どもを支え、子どもと喜

びを共有するための保護者の活動もあるべきだし、大人だけの自然の楽しみ方を探る行事もあ

っていい。そして、大人にも自然を愛するようになってほしい。これまでの蓄積を基にもう

十年間、私を含め学校にかかわるすべての人が、上味見地区で

生きる力を学んでいけたらと思